

ラグビーテストマッチ（11月3日開催）について

1 概要

○テストマッチ

- ・対戦カード 日本代表 対 ニュージーランド代表
- ・場 所 東京スタジアム
- ・日 時 11月3日(土)14時45分キックオフ
- ・入場者数 43,751人

※国内で行われた日本代表戦で過去最高（前年度比14,397人増）

○イベント

- ・イベント名 東京ラグビーファンブーン2018
- ・場 所 有楽町インフォス（旧1000days劇場）
- ・時 間 11時～17時
- ・入場者数 約3,000人
- ・イベント名 調布スクラムフェスティバル（調布市と共催）
- ・場 所 調布駅前広場
- ・時 間 13時～19時
- ・入場者数 約3,500人

※試合会場周辺に開催都市PRブースを設置

2 今回の都の取組と今後の対応

- テストマッチをラグビーワールドカップ2019™に向けた準備の一環と位置付け
- 交通アクセスやイベント運営など、準備状況を踏まえ、以下の取組を実施

(1) 交通アクセス

<鉄道>

○京王線飛田給駅における特急・準特急の臨時停車本数の増加（H29：36本⇒H30：46本）

当日の状況 ・試合後、飛田給駅で安全確保のための一時的な入場規制を実施したが、概ね円滑に誘導

<シャトルバス>

○運行ルートの事前案内及び積極的な観客誘導、運行本数の増加（H29：70本⇒H30：121本）

当日の状況 ・試合会場周辺等における運行ルートを記したチラシやグッズの配布などにより、シャトルバス利用率が向上し、交通分散を促進

（利用率）H29：試合前2.9%、試合後6.5% ⇒ H30：試合前3.5%、試合後10.2%

- ・乗車前の運賃先払いや乗降場での誘導による円滑な乗車
- ・利用者増に伴い、試合後、武蔵境駅、狛江駅行きバスで待ち時間が増

<道路（自動車・歩行者）>

○中央自動車道及び甲州街道の混雑緩和のための横断幕掲出等による事前周知

○甲州街道における高柵等の設置や巡回警備による観客の乱横断、路上駐停車の防止

当日の状況 ・試合後、甲州街道（上り車線）において若干の渋滞が発生

- ・高柵未設置箇所等で乱横断や路上駐停車が散見
- ・試合後、西調布駅への動線にある上石原歩道橋（甲州街道上）付近で歩行者の混雑が発生

<鉄道>

- 一層の混雑緩和に向け、スポンサー活動エリア等を活用した入退場時間の分散化の検討
- 臨時停車実施時間を鉄道事業者と調整

<シャトルバス>

- HPや主要駅での案内等、事前広報の拡充による利用促進
- 更なる円滑な運行に向け、運行時間や本数等、バス事業者と調整

<道路（自動車・歩行者）>

- 中央自動車道及び甲州街道利用者に対する事前周知の拡充
- 高柵の延伸や警備の強化等、円滑な車両通行の確保
- 的確な誘導による歩行者混雑の緩和
- 外国人向けの案内表示及び誘導の実施

今後の対応

(2) イベント運営

<有楽町>

- 大型モニターを3台設置し、多様なスタイルで観戦できるパブリックビューイングの実施
- ラグビー選手や開催都市サポーターによるトークショーの実施
- 対戦国や2019年大会出場国等に因んだ飲食ブースの設置

- 当日の状況**
- ・会場内のどこからでも観戦可能
 - ・椅子席エリアは満席
 - ・飲食ブースにおいて待ち時間なく飲食を提供
 - ・民間店舗との同一建物で開催したため、建物外からの視認性や誘客に一定の制約

<調布>

- イベントでは、パブリックビューイングやラグビー体験、トークショー等を実施
- 試合会場や主要駅等でのチラシ配布、SNSによる来場促進
- 試合会場周辺への東京都及び他開催都市PRブースの設置

- 当日の状況**
- ・試合後のアフタートークショーについて、シャトルバス運行状況を踏まえた開始時間の前倒し等により、バス利用の観戦客のイベント来場を促進
 - ・開催都市PRブースでは、スタジアム開場前から多数の観戦客が来場

今後の対応

<共通>

- 多様なスタイルでのパブリックビューイングや解説の充実など、より初心者でも楽しめるように工夫
- より多くの方の来場促進に向け、ラグビー体験など、コンテンツを充実
- 外国人を始めとした来場者に東京・日本の魅力を発信、交流の場を確保

<有楽町>

- 施設の有効活用や周辺施設との連携強化による面的な広がり確保

<調布>

- 試合前後にも楽しめるよう、シャトルバス利用者を誘導するなど、試合会場と連携した運営を実施

今後の対応

- 配置場所に応じた研修の充実
(観光、交通、大会運営の各情報を的確に提供)
- 外国人への多言語対応の充実
(対応可能な言語をわかりやすく上着等に表示、ニーズの多いシャトルバス乗り場付近に外国語を話せるボランティアが活動できるよう対応)
- 交通事業者との連携を強化
(シャトルバス、鉄道の運行状況の情報共有)

(3) ボランティア

- 都が組織委員会に推薦した2019年大会のボランティア(東京都観光ボランティア及び東京マラソンのボランティア)の中から募集
- 試合会場周辺、飛田給駅、多磨駅、西調布駅、新宿駅及びイベント(有楽町)会場で、アクセスやイベント内容の案内等を実施(試合会場周辺等32名、イベント会場10名)

- 当日の状況**
- ・シャトルバス乗り場などで積極的に観客への声かけを行い、親身な案内を実施
 - ・活動に対するボランティアの高い満足度
 - ・運営方法等について、ボランティアから意見を聴取
例：活動内容以外の関連情報等の事前説明を充実してほしい
シャトルバス運行状況を適時、ボランティアに情報共有してほしい

※ 今後、今回の取組を更に検証し、2019年大会に向けた交通輸送やファンゾーン等の計画に反映